

作成した教材を含む教育方法に基づく研修プログラム例の検討

研究分担者 島田 裕子 自治医科大学看護学部 講師

研究要旨:本研究班で作成したeラーニング教材と演習教材に基づき、市町村保健師の災害時保健活動遂行能力の獲得・向上のための研修プログラム例を検討することを目的とした。

研修プログラム例は、本研究班で作成したeラーニング教材と演習教材を組み合わせで作成した。演習教材は本研究班で作成した教材の他に既存の演習も含め、研究代表者が先行研究において作成した研修プログラムの例も参考に検討した。

研修プログラムの構成は、レクチャー、ワークショップ、リフレクションを組み合わせ、レクチャーには本研究班が作成したeラーニング教材の視聴を事前学習に位置づけ、集合型の対面学習にてワークショップとリフレクションを行う構成とした。内容は、わが国で発生する可能性の高い地震と豪雨水害の2パターンを作成した。市町村では現在、新型コロナウイルス感染症のワクチン接種の完了が最重要課題となっている事を鑑み、対面学習は半日を基本とし、本研究班において演習が効果的として抽出したコンピテンシーに焦点を当てた内容となるよう検討した。対面学習をより効果的なものとするために、グループ編成は役職や所属組織、災害従事経験の有無を考慮したものとした。研修の前後には実務保健師のコンピテンシーチェックシートを用いて評価することを含めた。

今後は、研究代表者らのネットワーク等から、災害対策に従事した経験のある統括保健師や実務保健師に研修プログラム例に対するヒアリングを行い、それをふまえて精練した研修プログラムを実施、その後は評価会議を開催し、研修プログラムを精練する予定である。今回作成した研修プログラム例はフェーズ0からフェーズ1までに対応した内容であるため、今後はフェーズ2まで対応した演習教材作成と共にバリエーションを増やし、それらを含めた研修プログラムについても検討していく必要がある。

A. 研究目的

本研究の目的は、本研究班で作成したeラーニング教材と演習教材に基づき、フェーズ0からフェーズ2までの市町村保健師の災害時保健活動遂行能力の獲得・向上のための研修プログラム例を検討することである。

B. 研究方法

研修プログラム例は、eラーニング教材と演習教材を組み合わせで作成した。本研究で作成した

演習教材の他に、既存の演習も活用して検討した。そのほか、先行研究の研修プログラムの例¹⁾も参考に研修プログラム案を検討した。作成する研修プログラム例は、研究代表者らが先行研究²⁾において作成した研修の企画の流れ(図1)に位置づくものとし、本稿ではステップ3の研修プログラムの構成及び方法の検討について焦点化して述べることとする。

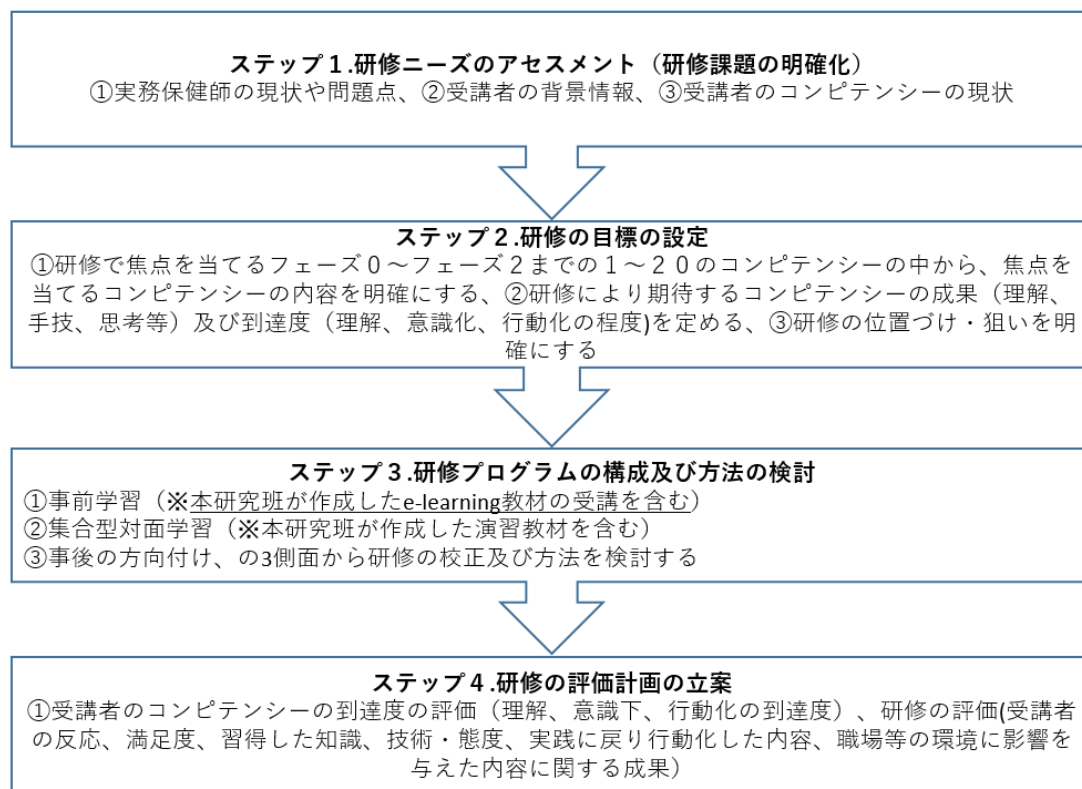


図1 研修の企画の流れ²⁾

C. 研究結果

1. 研修の時期および時間の検討

現在、わが国はコロナ禍にあり、市町村において新型コロナウイルス感染症のワクチン接種の完了が最重要課題となっている。市町村保健師がこれまで以上に極めて業務多忙な状況の中で、研修受講のための時間確保は難しい状況にある。一方、近年自然災害が多発し、コロナ禍における避難所対応への備えも喫緊の課題となっている。このことから、集合型の対面での研修実施は半日程度が妥当であると考えた。また、研修の実施時期については、上記のワクチン接種が完了または完了の見通しが立った時期が望ましいと考えた。

2. 研修プログラム内容の検討

1) 研修プログラムの構成

研修プログラムの構成は、レクチャー (L)、ワークショップ (W)、リフレクション (R) を組み合わせ L、W、R の順に行う LWR 型とした。LWR 型は短時間、多人数に対し、知識必要事項をしっかりと伝える目的の場合よく使われ、あら

かじめ必要な知識をインプットすることで何をすればよいか分かりやすくなるとされている³⁾。レクチャーの部分は本研究班が作成した e ラーニング教材の視聴を研修の事前学習として位置づけ、集合型の対面学習と組み合わせ実施することが効果的、かつ市町村保健師の研修受講のための時間捻出にかかる負担軽減も含め、望ましいと考えた。集合型の対面学習の部分は、本研究班が演習教材を作成する必要があると特定したコンピテンシー (表 1) に焦点化し作成した演習教材、及び既存の演習教材を含めたワークショップ、リフレクションを半日程度で実施する構成とした。

2) 事前学習の設定

受講者に対し研修会への参加に向けて、知識及び意欲等の準備性を高めるための事前学習内容として、演習に効果的であると考えられるコンピテンシーとその遂行に求められる知識・技術・態度に関連する e ラーニング教材の視聴を位置付けた。その他に、所属自治体の地域防災計画やハザードマップ、災害時保健活動等マ

ニュアルの内容、組織における災害時の指揮命令系統、実務保健師及び統括保健師・管理的立場の保健師の災害時の役割などの基本事項を確認しておくことを課すこととした（表2）。

3) 焦点を当てる災害の種類・規模・場面

わが国では近年、東北地方太平洋沿岸部における地震の多発や、南海トラフ地震、首都直下型地震等の発生が懸念されていること、また、地球温暖化に伴う豪雨水害も多発していることから、研修プログラムで扱う自然災害は、地震災害及び豪雨水害に焦点を当てた。災害規模については、県内外から支援を要する規模の災害を想定した研修企画は、実践的な応用に資する⁴⁾と考えられるため、県内外からの応援派遣による支援の必要な被災状況を想定した。また、現在はコロナ禍にあり、コロナ禍における避難所対応は喫緊の課題となっていることから、豪雨水害については、COVID-19 感染拡大下を想定した演習教材を含めて内容を検討した（表3-1、表3-2）。

4) 研修前後のコンピテンシーの自己評価

本研究班の文献検討において、自己効力感の測定は、災害支援が未経験の対象者や経験が少ない者に対して研修を行う際は有効であることが示唆された。これをふまえ、研修の前後に「実務保健師のコンピテンシーチェックリスト」⁵⁾を用いて、超急性期及び急性期のコンピテンシーについて、自己評価してもらうこととした。また、プログラムの評価として、終了後に満足度や役割遂行の自覚・知識の獲得、自身の問題の明確化の観点から評価してもらうこととした（表2、表4）。

5) 演習時のグループ編成

グループ編成は、研修プログラムの演習内容に合わせて、保健師としての経験年数や役職（職位、統括、次期の区別等）を考慮した編成、所属組織を考慮した編成（自治体種別や、規模が近い自治体等）、災害従事経験の有無を考慮したグループ編成とする。グループサイズは、目的に合わせてペア、グループ（4～6人）、全体とすることが望ましいと考え、それらを含めて検討した。

D. 考察

1. 研修プログラム案の精錬

令和3年度は、研究代表者らのネットワーク等から、災害対策に従事した経験のある統括保健師や実務保健師を招集し、検討した研修プログラム例に対するヒアリング、ならびにそれをふまえ精錬した研修プログラムを実施する。また、実施結果をふまえ、前述の保健師を再度招集して評価会議を開催し、研修プログラムの内容を精錬する予定である。今回作成した研修プログラム例はフェーズ0～1までの市町村保健師の災害時保健活動遂行能力の獲得・向上のための研修プログラムとなっているため、今後はフェーズ2まで対応した演習教材を作成すると研修プログラムについてもバリエーションを増やせるよう検討していく必要がある。

2. 市町村で研修が企画実施できるための検討

今後は、作成した研修プログラムを活用し市町村で研修を実施できるように、研修プログラムを含めた教育教材活用のためのマニュアルを作成していく予定である。また、市町村での研修実施にあたっては、本研究で作成した演習教材が各市町村の地区特性を反映させたものとなるよう、市町村保健師が状況設定を加筆・修正していくことで、効果的な研修プログラムになると考えられる。このことから、これを可能にするための教育教材活用のためのマニュアルを作成する予定である。

E. 結論

本研究班が作成したeラーニング教材と演習教材に基づき、フェーズ0からフェーズ2までの市町村保健師の災害時保健活動遂行能力の獲得・向上のための研修プログラム例を検討することを目的とした。研修プログラムは対面の集合演習は半日程度とし、事前学習としてeラーニング教材視聴、地域防災計画の確認等を課し、対面学習では主にワークショップとリフレクションを実施する構成とし、わが国で発生する可能性の高い自然災害である地震と豪雨水害の2パターンを、焦点化するコンピテンシーを踏まえて作成した。今後は、災害対策に従事した経験のある統括保健師や実務保健師に

研修プログラム例についてのヒアリングを行い、それをふまえて精練した研修を実施し、再評価を行う。さらに、この研修プログラムを活用し各市町村において地域特性に即した研修が企画・実施できるよう、研修プログラムを含めた教育教材活用のためのマニュアルを作成していく予定である。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

引用文献

1) 春山早苗 災害対策における地域保健活動推進のための実務担当保健師の能力向上に係わる研修ガイドラインの作成と検証．厚生労働科学研究費補助金 健康安全・危機管理対策総合研究事業 令和元年度分担研究報告書（研究代表者 宮崎美砂子），2020.

2) 宮崎 美砂子，奥田博子，春山早苗，石川麻衣，金谷泰宏，金吉晴，植村直子 実務保健師の災害時の対応能力育成のための研修ガイドライン 災害対策における地域保健活動推進のための実務担当保健師の能

力向上に係わる研修ガイドラインの作成と検証．厚生労働科学研究費補助金 健康安全・危機管理対策総合研究事業 平成 30 年度総括・分担研究報告書（研究代表者 宮崎美砂子），19，2020.

3) 宮崎 美砂子，奥田博子，春山早苗，金谷泰宏，吉富望 井口沙織 統括保健師の為の災害に対する管理実践マニュアル・研修ガイドライン 災害対策における地域保健活動推進のための管理体制運用マニュアル実用化研究．厚生労働科学研究費補助金 健康安全・危機管理対策総合研究事業 平成 28-29 年度総括・分担研究報告書（研究代表者 宮崎美砂子），19，2018.

4) 再掲 2)，2

5) 再掲 2)，41-49.

表1 集合型の対面学習で焦点を当てるコンピテンシー

<p>C1 被災者・避難者の中から重症傷病者等の救急医療の必要な人、持続的な医療やケアが必要な人、配慮の必要な人を特定し、緊急搬送、福祉避難所への移送、別室等での対応を行うために必要な知識を学ぶ。また緊急ではない要医療者の手当て、要配慮者への継続的な見守りを行う。</p> <p>C3 避難者の健康観察、避難環境の整備により、二次的な健康被害の発生を予防する。</p> <p>C4 必要な応援内容と人員を判断し、統括保健師へ報告する。</p> <p>C5 診療可能な病院、医療の確保を必要とする被災者に関する情報収集を行うために必要な知識を習得する。</p> <p>C6 医療を必要とする被災者への医療提供体制づくりについて統括保健師を補佐し協働するために必要な知識を習得する。</p> <p>C7 平時から把握している要配慮者のうち早急に安否確認の必要な対象者を判断する。</p> <p>C8 安否確認の体制づくりを行う。</p> <p>C9 安否確認のもれ、不明者の確認に対する持続的な管理を行う。</p> <p>C10 避難所等巡回、関係者及び災害対策本部等からの情報を活用して、被災者のヘルスニーズの概要を迅速に把握し、優先度を高くして対応すべき地域の課題と対象を明確にする。</p> <p>C11 地域の現有資源による対応力を踏まえたときに受援が必要である課題及び対象を明確にする。</p> <p>C12 既に被災地で活動を開始している支援チームについて情報収集する。</p> <p>C13 受援に際して外部支援者に依頼する内容を特定し、具体的な期間、人数、依頼内容を計画し、統括保健師に報告する。</p> <p>C14 市町村と保健所との連携の下で、外部支援者が効果的に活動できるように受入の準備を行う。</p>
--

表2 事前学習

内容	
<p>事前学習① (レクチャー)</p>	<p>・eラーニング教材の視聴</p> <p>●事前視聴を必要とするeラーニング教材(9コンテンツ計162分)</p> <p>※表中のCは以下の各eラーニング教材の内容に関連するコンピテンシー</p> <p>①災害に関わる根拠法令・災害時保健医療体制(22分)</p> <p>②フェーズ毎の保健師活動(20分)</p> <p>③都道府県、保健所、市町村、各々の役割と連携(12分)： C1, C2, C5, C6, C13, C14</p> <p>④災害に関わる応援者の種別・特性や要請の仕組み(24分)：C4, C13, C14</p> <p>⑤⑥避難所における保健活動の基本①②(①13分、②14分)： C1, C2, C7, C8, C9</p> <p>⑦避難所における迅速アセスメント(18分)：C3, C10, C11, C12</p> <p>⑧避難所における感染予防対策の基本(20分)：C3</p> <p>⑨災害時の2次的健康被害の理解(17分)：C3</p>
<p>事前学習②</p>	<p>・所属自治体の地域防災計画、ハザードマップ、災害時保健活動等マニュアルの内容、組織における災害時の指揮命令系統、実務保健師及び統括保健師・管理的立場の保健師の災害時の役割などの基本事項の確認</p>

表 3-1 集合型の対面学習：地震編（約 3 時間）

	内容	備考
ワーク	<p>[10分] オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標説明（研修を企画した意図の説明） ・キャリアレベルをあげるために本日の演習で意識すること ・今回の研修で気づいてほしいこと 	
	<p>[75分] 避難所運営シミュレーション（地震編）</p> <p>（60分）①避難所 HUG（オリエンテーション 15分、実際 45分）</p> <p>（15分）グループ討議「演習を踏まえ、避難所運営において重要であること、及び避難所運営における保健師や看護職の役割について考える」（討議 10分、発表 5分）</p>	<p>●関連するコンピテンシー</p> <p>①C1, C2, C3, C10 ②C15, C16, C17, C18, C19, C20</p> <p>●グループ構成（例）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役職（職位、統括、次期の区別等）を考慮した編成 ・災害従事経験の有無を考慮したグループ編成 ・所属組織を考慮した編成（自治体別や、規模が近い自治体等） ・グループサイズは 5～6 人を基本とする
	[5分] 休憩	
	<p>[60分] ケースメソッド「地震災害発生後の保健師活動」</p> <p>（20分）①災害発生後の 24 時間未満の情報収集（説明と討議で 15分、発表 5分）</p> <p>事前情報：地震発生後の A 市の保健センターの被災状況、保健師の出勤状況、市災害対策本部からの人命救助を最優先の指示が出されているとのこと。</p> <p>「この時点で、①何のために、②どのような情報を、③どのような手段を用いて、集める必要があると考えますか？市保健師としての役割から判断・行動していくために必要な情報について、統括保健師の立場から考えてみてください。」</p> <p>（20分）②応援要請のための情報収集（説明と討議で 15分、発表 5分）</p> <p>事前情報：A 市の概要、管轄保健所の概要、保健師の出勤情報、避難所への保健師の配置状況、避難者への対応状況、管轄保健所から派遣保健師要請の有無の回答ほしいとの依頼あり。「派遣保健師の判断・意思決定をするために、①どのような情報を、どのような手段を用いて集めますか？」</p>	<p>●関連するコンピテンシー</p> <p>①C5, C6, C7, C8, C9 ②C4, C10, C11, C12 ③C13, C14</p> <p>●グループ構成（例）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・所属組織を考慮した編成（自治体別や、規模が近い自治体等） ・役職（職位、統括、次期の区別等）を考慮した編成 ・災害従事経験の有無を考慮したグループ編成 ・グループサイズは 6 人を基本とする

	<p>(20分) ③派遣保健師の調整 (説明と討議で15分、発表5分) 事前情報：派遣保健師決定の連絡あり (2県からの派遣及び日本看護協会の災害支援ナースの派遣について派遣保健師の人数とグループ、派遣の開始時期と派遣期間、)</p> <p>「派遣保健師の受け入れのための調整について、考えて下さい。具体的には、日程、配置場所、オリエンテーション、関係機関の連絡などです。」</p>	
リフレクション	<p>[30分] リフレクション</p> <p>(3分) リフレクションの目的の説明・</p> <p>(5分) Step1 気づきを促す：個人のリフレクション</p> <p>演習中の自己の考えや行動を振り返ることによって、演習によって得られた学び、気づき (課題や改善策) を明確にする。</p> <p>(15分) Step2 学びの意味づけを促す：グループ内でのリフレクション</p> <p>個人の振り返りに基づいて、なぜそのように考えたか、なぜそのような行動をとったのか、グループメンバーとの対話により振り返りを深める。</p>	<p>●グループ構成 (例)</p> <p>・所属組織を考慮した編成 (自治体別や、規模が近い自治体等)</p>
事後の方向付け	<p>[5分] 講評</p> <p>・研修をとおした、自身のコンピテンシーの現状把握や自身の課題の気づきを基に、平時からのOJTや次の研修参加への問題意識を高めるなどして、継続的に能力開発が動機付けられるように促す。</p> <p>・具体的には、期待する効果から、「変化する状況を分析して判断する能力の獲得に向け訓練する必要性の意識を高める」「健康課題に対する予防的視点で平時からの準備について自身及び所属の現状を見直す」など、参加者が今回の研修と、これまでの各所属での取り組みから得た知識と技術を合わせ、自身の実践能力の判断を見直し、災害対策に取り組む意欲を高め、行動化が図られるように促す。</p>	<p>●受講後のコンピテンシーの自己評価、プログラム評価、研修受講後1か月半から2か月後の研修成果の自己評価についても説明する。</p>

表 3-2 集合型の対面学習：風水害編（約 2 時間 30 分）

内容	
ワーク	<p>[10 分] オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標説明（研修を企画した意図の説明） ・キャリアレベルをあげるために本日の演習で意識すること ・今回の研修で気づいてほしいこと
	<p>[90 分] 「COVID-19 感染拡大下における風水害発生時の保健師活動」（保健活動拠点編）※C は関連するコンピテンシー</p> <p>（10 分）状況設定とすすめ方の説明：ある一市の保健師経験 3 年目の A、10 年目の B のどちらの保健師の立場で取り組むか決める。課題 3 までは最初のグループで A または B の保健師の立場で取り組み、その後 A のみのグループ、B のみのグループに別れる。A のみのグループは課題 4～5 に、B のみの保健師のグループは、課題 6～8 に取り組む。事前情報として、市の保健師の組織体制、自治体や地域に関する情報あり。</p> <p>（10 分）自己紹介と役割分担：司会と進行役、A か B のどちらの保健師になるか決める。</p> <p>（10 分）課題 1 <u>フェーズマイナス 1 の活動</u>：C5, C6, C7 「秋雨前線が長く停滞していたうえ、100 年に 1 度ともいわれる大型台風が、明日夜にかけて Y 県に最接近するとの予報で、特別警報発令の可能性も見込まれている。市災害対策本部はまだ設置されず、警戒体制をとっている。<u>この段階ですべきことは何か？</u></p> <p>（15 分）</p> <p>課題 2 <u>フェーズ 0 の活動①</u>：C5, C6, C7 台風の接近速度が速まり、浸水や土砂災害が見込まれる地区では、避難所が開設された。すでに秋雨前線の長雨で地盤が緩んでおり、土砂崩れにより道が遮断されている地区もあった。帰宅した係長は道路が遮断され、出勤できない状況であった。昼前に特別警報が発令され、市災害対策本部が設置された。保健センター長（保健師）は災害対策本部に詰めるとになった。<u>地域情報で収集すべき内容は何か？</u></p> <p>課題 3 <u>フェーズ 0 の活動②</u>：C5, C6, C7 すでに開設された複数の避難所から新型コロナウイルス感染症への対応について指導をしてほしいと依頼が入った。自宅の浸水が心配だが、新型コロナウイルスの感染が心配で避難所に行けないがどうしたらいいかという相談が、保健師が日ごろかかわっている精神障がい者の家族や乳幼児の母親から複数入ってくる。<u>保健師は、どのように役割分担し対応するか。</u></p>

グループ変更 (3分)	
B 保健師グループ	A 保健師グループ
<p>(20分)</p> <p>課題4 フェーズ1の活動 ④ : C13, C14</p> <p>台風は速度をあげながら、Y県に近づき、Y県は巨大で勢力の強い台風の暴風雨圏に入った。市内の一級河川A川が支流と合流する数か所で堤防の決壊が報告されている。また山間部で連絡のとれない地区が数か所ある。被害状況は明確ではないが、これまで経験したことのない甚大な被害が予測される。<u>複数の避難所への対応や山間部で連絡の取れない地区への対応などの必要性から、外部からの応援が必要と見込まれる。応援を受けるためにどのような準備をするか。</u></p>	<p>(7分) 課題6 フェーズ0の活動 : C1, C3</p> <p>A保健師が、A地区避難所(小学校)に到着すると、小学校職員と、先に到着していた市役所の事務職員が体育館の入口で真剣な表情で話しており、保健師を見て、コロナ禍における避難所のゾーニングについて尋ねてきた。雨風が次第に強くなってきている。避難所の近くに住む独居の高齢者が「一人は不安だから」と言って、杖を突いて避難してきた。<u>避難者受け入れ体制づくりとしてすべきことは何か。</u></p> <p>(7分) 課題7 フェーズ0の活動 : C1, C3, C4, C10, C11, C12</p> <p>幼児をつれた妊婦、持病の薬を持ってこなかったという高齢者、中にはマスクをしていない人もいる。避難所に入ってから落ち着きがなく不安そうに避難所内をうろうろしている人もいる。ほどなくして、避難所のあるX地域の自治会長と、この地区に住む非常勤の看護師が避難してきた。ひざ下が濡れている人も受付に来ている。あと20人ほどでコロナ禍に考慮した避難所収容可能人数になってしまう。<u>どのような情報を収集し、統括保健師に何を報告するか、避難所にかかわるどのような関係者とどのような情報を共有し支援体制を整えるか。</u></p>

	<p>課題5 フェーズ1の活動 ⑤ : C13, C14</p> <p>台風は市内に甚大な被害を及ぼして過ぎ去った。浸水した地域の8か所の避難所のうち一部には定員以上の避難者が避難してきている。また山間部で連絡が取れない地区もある。浸水地域には市立病院があり、病院も浸水している。保健所保健師（中堅）が朝から応援に来てくれた。午前中のうちに、他保健所や市町から2名ずつ2チームで応援に来てくれる予定である。保健所保健師、応援保健師にそれぞれ何を依頼するか。B保健師はほかの当市保健師とともに何をすべきか。</p>	<p>(6分) 課題8 フェーズ0の活動 : C1, C3, C4, C10, C11, C12</p> <p>腰から下がずぶ濡れになった人も複数受付に到着している。途中流されそうになっている人を見てと言っている人もいる。避難者は各自の携帯に届くエリアメールの着信音になる度に、落ち着かない様子である。避難所周辺の浸水が深くなったことに伴い、新たに避難してくる人も途絶え、避難者がひととおり部屋におさまったところで、健康相談に関するコーナーを設けたが、相談に来る人はほとんどいない。避難者に配給するための保温用アルミシート、水、クラッカーが足りなくなってしまい、配れなくなってしまった。雨がやんで月夜になり水も引いてきたため、避難者は少しずつ家に戻り始めたが、間もなく、Z市上流で降った雨でZ市を流れる川が増水し、堤防を越水して避難所の周囲に流れ込み、浸水の深さが以前よりも深くなってきた。家に戻ろうと避難所を出た避難者数人が途中から引き返してきた。途中で車が動かなくなり、車を乗り捨ててきたとって下半身がずぶ濡れで戻ってきた人もいる。収容人数を超えそうである。避難所にかかわるどのような関係者とどのように役割を分担するか、保健師は何を優先して対応するか。</p>
	(休憩 10分)	
	(15分) 全体共有 A保健師グループとB保健師グループの共有	
リフレクシオン	<p>[40分]</p> <p>(10分) 個人のリフレクシオン 課題に取り組んで気づいたこと、災害対応に対する個人の課題/所属で演習を企画することを想定した課題</p> <p>(15分) グループ内での振り返りの共有 個人の振り返りに基づいて、なぜそのように考えたか、なぜそのような行動をとったのか、グループメンバーとの対話により振り返りを深める。</p> <p>(15分) 振り返りの全体共有</p>	
事後の方向付け	<p>[5分] 講評</p> <p>・研修をとおした、自身のコンピテンシーの現状把握や自身の課題の気づきを基に、平時からのOJTや次の研修参加への問題意識を高めるなどして、継続的に能力</p>	

	<p>開発が動機付けられるように促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的には、期待する効果から、「変化する状況を分析して判断する能力の獲得に向け訓練する必要性の意識を高める」「健康課題に対する予防的視点で平時からの準備について自身及び所属の現状を見直す」など、参加者が今回の研修と、これまでの各所属での取り組みから得た知識と技術を合わせ、自身の実践能力の判断を見直し、災害対策に取り組む意欲を高め、行動化が図られるように促す。 ・受講後のコンピテンシーの自己評価、プログラム評価、研修受講後1か月半から2か月後の研修成果の自己評価についても説明する。
--	--

表 4 評価

評価①	<p>・研修受講後の評価</p> <p>コンピテンシーの自己評価 「実務保健師の災害時のコンピテンシーチェックシート」により超急性期及び急性期のコンピテンシーについて、再度自己評価してもらう。</p> <p>プログラム評価 満足度、役割遂行の自覚・自信、知識の獲得、自身の問題点の明確化の観点から評価してもらう</p>
評価②	<p>・研修受講後1か月半から2か月後の研修成果の自己評価</p> <p>実践に戻り、意識化の変容、行動化の変容、周囲の人々や組織に及ぼした影響の内容について、紙面により評価してもらう。</p>